

立命大 打線が沈黙し完敗



初戦で完投した東

立命館大学硬式野球部は2回戦、東海大学北海道キャンパス(札幌学生野球連盟)に4-0の完封負けで8強を逃した。

硬式野球部は、春のリーグ戦において3季連続のリーグ優勝を果たし、6月6日から明治神宮野球場・東京ドームの2会場で開催された第65回全日本大学野球選手権記念大会に3年連続17回目の出場を果たした。

6日の1回戦、東京ドームで行われた東日本国際大学(南東北大学野球連盟戦)では先発のエースの東が相手の主砲二橋に一発を浴びるも要所を締め、8安打2失点完投、打線は0-0の2回に石坂、佐野の連続適時打で2点を先制、なお中盤以降も着実に加点し、12安打8得点と試合を優位に進め、1回戦を突破した。

8日の2回戦、東京ドームで行われた東海大学北海道キャンパス(札幌学生野球連盟)戦では先発の渡邊が0-0の3回に相手の8

東海大札幌に雪辱果たせず

番打者にソロボ壘打を浴び、5回には一死満塁のピンチを招き、黒田にマウンドを譲る。代わった黒田が2点適時打を浴びるなど3点を失った。一方、打線は初回に2死1、3塁の先制機を作るも得点ならず、5回、8回にも得点機を作ったが1本が出なかった。終わってみれば相手のエース水野に16三振を奪われ0-4の完封負けで春日本一への夢は2回戦で途絶えた。

昨年の選手権1回戦に続き再び同大学に敗れ、リベンジとはならなかった。

本学に爆破予告

5月14日、本学はウェブサイトで爆破予告と見られる書き込みを受け、大も中止となった。国際寮も立ち入り禁止となり、寮生は一時的避難、父母教育後援会総会も別会場への変更を余儀なくされるなど、影響は広範に及んだ。

厳戒な体制が敷かれたこともあって、被害はなかった。閉鎖された全施設の調査の結果、不審物は発見されず、当事者はいたらずであることが見られている。また、この爆破予告に伴う騒動なども発生しなかった。

広報課によると、京都府警から、ネット上に爆破予告の書き込みがあるとの連絡を受けて、総務を中心に学内各部署が対応し、常任理事会で全日封鎖を決定した。現段階で書きこんだ人物は特定されていない。なお、その翌週にかけてもこれとは別の爆破予告とみられる書き込みが発見されたが、警察との協議の上でこれをいたらずと断定し、対応はとられなかった。

(眞子)

BKCに池上彰氏

経済学部で講演会開催

5月16日、びわこ・くさつキャンパスにおいて、ジャーナリストで東京工業大学特命教授の池上彰氏が経済学部の講演会に登壇した。日本経済新聞社が後援したこの講演は「経済学を考える日」と題され、経済学部1回生の経済学入門の講義の一環として、池上彰氏と日本経済新聞社デジタル編成局編成部の加藤修平氏が壇上に上がった。

池上彰氏は慶応義塾大学を卒業後、NHKに入局して記者となり、キャスターを経て1994年から2005年までの11年間「週刊こどもニュース」を担当し



経済学の面白さを語る池上彰氏

著作での優しい語り口とわかりやすいニュース解説は人気を呼んだ。

「経済学っておもしろい」と題された講演で、池上氏は日銀のマイナス金利政策やサウジアラビア・イランの国交断絶といった時事ニュースの解説や、氏が世界各国を回って集めた紙幣を実際にモニターに映して話したお金の信用の話など、経済学の魅力を身近な話題を織り交ぜて語った。

池上氏は「経済学は経済学者に騙されたいための学問。経済学は複雑な人間の経済活動をいかに単純に説明するかを突き詰めてきた。常に



発行所 立命館大学新聞社
 発行人 石田 遼太
 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学学生会館2F
 直通 075(465)8253
 内線 2610
 〒525-8577 草津市野路東1-1-1 立命館大学セントラルアーク4F
 〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150 A棟北ウイング(AN) 3F Student Lounge内
 e-mail ritsshinbunsha@gmail.com

料理工房
ホワイトファミリー
 Caring & Resistant

322-9999
 〒601-8304 京都市南区西九条河原町33
 fax322-2999
 <URL>http://www.wf9999.com

6・7月号

本号の紙面

- 硬式野球 リベンジならず…1面
- タバタトレーニング…2面
- R2020 変わるキャンパス…3面
- 京都鉄道博物館…4面

海神

産業革命を牽引し、「大英帝国」と呼ばれるまでの繁栄を築いた欧州の大国が今、混迷を極めている▼死者を出すほどの議論の末、国民投票の結果、EUからの離脱が決定した。ところが、国民投票の後になって離脱派の人物が掲げてきた公約の嘘などが報じられ、離脱派だった国民からは後悔の声が出てきている▼離脱への支持がここまで拡大したのは、EUや移民への不満が爆発したためである。その不満は自由なイギリスを取り戻すというナショナリズムへと形を変えた。政治的・経済的な合理性への志向を、利己的な、怒りや憎しみの声に変わった。いざ結果が出て現実を突き付けられた時、自分たちの行動が短絡的ではなかったかと、後悔の念が募っている▼この状況、およそ70年前の我が国と似てはいないだろうか。不況から国民の政治に対する不信が広がり、軍部に勢力の拡大を許した。感情の隙に付け込んだ軍部の思惑に、国民はまんまと乗せられてしまった。そして終わってみれば人も街もすべて失われた▼「民衆」の力は絶大である。国を、世界をも動かす。一見強大に見える権力も、民衆には敵わない。だからこそ権力は、やさしい言葉で民衆を操ろうとする。「民衆」は私たちのことである。私たち一人ひとりは、団結によって世界を動かすほどの力を持ち得ているのだ。この自覚が、混迷を極める今こそ求められる。さもないければ、民衆は自らの手でその首を絞めてしまう。(眞子)



立命館大学新聞社

立命館新聞社

検索

新聞社WEBサイト公開中! <http://www.ritsumeikanpress.com/>

立命館大の最新情報・スポーツなど盛りだくさん!